

平成28年度
第1回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成28年6月2日（木）13:00～15:00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成28年度第1回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
おかもと 岡本	れいこ 玲子	大阪大学大学院保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座教授
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
こやま 小山	あきら 旭	岡山市連合町内会副会長
しおみ 塩見	まきこ 槇子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
ふじわら 藤原	けいこ 恵子	株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻が参りましたので、ただいまより平成28年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会に当たりまして、岡山市長、大森雅夫よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、この審議会にお集まりいただきまして、ありがとうございました。1年間の長きにわたって10回も審議をいただきまして、長期構想の策定という形にさせていただきました。本当にありがとうございます。おかげさまで、「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」という立派なものができると思っております。

立派なものができると喜んでいるだけでは当然だめなので、具体的な施策を一つ一つ積み上げていきたいと思っております。これからのご指導もよろしくお願いいたします。

本日は、それぞれのお立場からご教訓を賜り、実効性の高い中期計画の策定に向けて、実りある議論を交わしていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（植月） 続きまして、越宗会長からご挨拶をいただきます。

3 会長あいさつ

○越宗会長 改めまして、皆さん、こんにちは。市長さんから今、去年の話がございましたけれども、委員の皆さんに一昨年12月から昨年11月まで1年間にわたって熱心にご審議をいただきまして、長期構想の答申を取りまとめることができました。その後、ご承知のとおり、市議会での議論、あるいは市民の方からの意見等を踏まえまして、岡山市では本年3月に長期構想を策定されたわけでございます。改めて皆さん方のご尽力に深く感謝申し上げたいと思っております。

今年度、岡山市では長期構想を実現するための施策の展開を示す中期計画を取りまとめられるということでもあります。住みやすさに一層磨きをかけつつ、岡山の躍動感を創出し、市民が愛着と誇りを持てる岡山市の実現に向けて、具体的な処方箋を盛り込んだ実効性の高い計画となるよう、私ども審議会といたしましても議論を尽くしてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様にはよろしくお願いいたします。

簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（植月） 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況ですが、委員の1名の方がご都合によりご欠席でございます。なお、基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

申し遅れましたが、本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長にお願いいたします。

○越宗会長 それでは、会議の次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思っておりますけれども、議事に入ります前に、傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いします。

○事務局（植月） 本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議회를公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 委員の皆さん、いかがでしょうか。本日の審議につきまして、特に支障になる理由はないと思われまますので、本会議を公開にしたいと思っております。よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

○越宗会長 皆様のご賛同をいただきましたので、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（植月） はい、それでは入っていただきます。

4 協議事項（1）岡山市第六次総合計画 前期中期計画について

○越宗会長 それでは、議事を進めたいと思っております。

では、4の協議事項の（1）であります。岡山市第六次総合計画前期中期計画について協議をしたいと思っております。まずは事務局から資料等の説明をお願いします。

○事務局（門田） 失礼いたします。事務局の総合計画課の門田でございます。本日の資料につきまして一括してご説明をさせていただきます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

そして、資料の説明に入ります前に、本日直前まで記載内容のチェックや修正作業が入

りまして、確定版の配付が当日になってしまいましたことを、まずはおわび申し上げます。申しわけございませんでした。

それでは、資料1をご覧ください。この資料は、前期中期計画策定の基本的な考え方の案をまとめたものでございます。3月に策定した長期構想では、都市づくりの基本目標として「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」を掲げ、3つの将来都市像と都市づくりの10の基本方向をお示しました。この長期構想を実現するための具体的な施策展開を示すものとして、平成32年度までの5年間を期間とする前期中期計画を今年度策定する予定にしております。

ご覧のように、中期計画は分野別計画、区別計画の二本立てで考えております。このうち分野別計画は、全市的な視点で政策分野ごとの施策展開を体系的に整理してお示しすることとしており、計画の前提となる将来人口や、数値目標を盛り込んだ成果指標などを記載する予定にしております。一方、区別計画は、各区に特徴的な課題に対応し、区の特性をいかしたまちづくりを進めるために、重点的に推進する施策や、市民生活に密着した施策を抽出して記載する予定にしております。

市全体で推進すべき施策は、原則としては分野別計画に記載いたしますが、全市的に推進するものであっても、地域の特性に応じて取り組みの方向性に特色が出るものや、市民協働で地域密着型の取り組みなどは区別計画への記載対象になり得ると考えております。区別計画には、区の現状と課題、区づくりの将来目標、区づくりに係る施策の方向性などを記載することを想定いたしております。

では、次に資料2をご覧ください。中期計画の策定スケジュールでございます。長期構想につきましては、基本政策審議会に諮問させていただき、審議会からの答申をもとに策定いたしました。これに対し、中期計画につきましては、基本的には市の執行部において案を練り上げていくべきものと考えており、その過程で審議会の皆様には、本日、そして8月8日、また9月末頃の約3回を目途にご審議をいただき、よりよい計画にしていきたいと思いますと考えております。

中期計画のうち分野別計画の策定につきましては、4月から5月にかけて政策・施策体系の整理とあわせて、政策別の現状と課題を取りまとめ、本日の資料としてご提示しております。また、区別計画の策定に向けては、2月末から5月にかけて市内10カ所でワークショップを開催し、市民の方が日ごろ感じている身近なまちづくりへのご意見やニーズを把握し、これも踏まえて各区の現状と課題を取りまとめ、本日の資料としてお示ししております。

今後、分野別計画について現状と課題をさらに精査するとともに、施策の展開について検討し、区別計画についても現状と課題の精査とあわせて、施策の方向性を検討し、次回8月8日の審議会では、たたき台という形でできるだけ最終形に近づけたものをお示していきたいと思っております。

このたたき台につきまして、審議会でご審議いただきますとともに、議会でのご議論を

経て、10月初めごろを目途に素案を公表し、市民の皆様からのご意見もお伺いした上で案を固め、最終的には市議会とも調整し、議案として提出してまいりたいと考えております。

それでは、資料3をご覧ください。分野別計画の政策・施策体系の案をお示ししております。長期構想では3つの将来都市像と、都市づくりの10の基本方向をお示ししており、中期計画の分野別計画ではこれに沿った政策・施策の体系を明らかにし、その具体的な展開をお示ししたいと考えております。この資料では、30の政策と90の施策で構成される体系を案としてお示ししております。

1ページ目が、将来都市像Ⅰの「経済・交流都市」を実現するための政策として、政策1から10まで。また、政策ごとに①、②、③と番号を打っておりますが、施策が全部で31ございます。同様に2ページ目は将来都市像Ⅱの「子育て・教育都市」実現のための政策が11から19まで、施策は全部で25ございます。同様に、3ページ目でございますが、将来都市像Ⅲの「健康福祉・環境都市」実現のための政策として、政策20から28まで。施策は26ございます。さらに、都市経営に関しては、政策29と政策30。施策が全部で8つございます。

続いて、資料4でございます。資料4は、資料3でお示した政策・施策の体系に沿って、施策ごとに現時点で整理をした現状と課題を記載しております。今後、精査が必要と思っております。分野別の課題等につきましては、長期構想の議論の中でも多くのご意見をいただきましたが、本日は長期構想の実現という観点から、中期計画の策定を進める上でぜひ押さえておくべきポイントや盛り込むべき課題、方向性などについて、改めてご意見をいただければと思っております。いただいたご意見を踏まえ、今後、全体調整を図りながら、具体的な施策展開とあわせて記載内容を精査し、次回にたたき台としてお示ししたいと考えております。

なお、資料4はかなりページ数もありますし、そのエッセンスにつきましては構想策定時にお示した資料とも重なる部分もございますので、内容の説明については省略させていただきます。後日ご覧になって、お気づきの点やご意見などありましたら、事務局までお知らせいただければ幸いです。

続いて、資料5の「区の概況、現状と課題」でございます。資料5は、ワークショップでのご意見なども踏まえて、現状と課題をなるべく幅広くに記載するように努めて、現時点で一応の整理を行ったものでございます。区に関する資料を提示するのは初めてとなりますので、若干粗い説明になるかとは思いますが、少し概略を説明させていただきます。

それでは、1ページをご覧ください。北区の概況でございます。人口は本市の4割、面積は約6割ということです。中心市街地から中山間地域まで、多様性に富んだ地域がありまして、地域資源のところにありますように、中心部には岡山城や後樂園などの城下町としての歴史文化遺産、北西部の吉備路には造山古墳や吉備津神社など古代吉備文化以来の歴史・文化遺産などがございます。また、最後にありますように、白桃、マスカット、メロン、黄にら、山の芋など、地域ごとにさまざまな農産物も生産されております。

それから、3ページ、現状と課題でございます。産業につきましては、中心市街地の賑わい創出とあわせて、中山間地域などでは農業の担い手確保や、近隣市町と連携した有害鳥獣の対策などが課題となっております。それから、交通でございます。中心部において自転車の利用環境の向上や、まちなかの回遊性の向上につながるような交通利便性の向上が求められております。一方で、中山間地域などでは、買い物や病院などの生活交通の確保が課題となっております。

4ページをご覧ください。コミュニティの2つ目のところでございますが、北区では外国人市民の約6割の方が住んでいるということで、外国人市民との交流が活発な地域づくりというのも課題となっております。

それから、一番下の特色ある地域づくりでございますが、5ページに課題を書いてございます。①ですけれども、自然・歴史・特産品などさまざまな地域資源を生かした地域づくりを進めるとともに、子どもに地域への愛着を持たせていくということが課題となっております。また、②といたしまして、大学がたくさん集積しているということも生かして、学生の力を生かした地域づくりも必要となっております。

それでは、7ページをご覧ください。中区の概況でございます。人口は本市の2割を占めておりまして、国勢調査の直近の状況を見ますと、人口増加率が4区最大となっております。また、人口密度も4区の中で最大となっております。

地勢の欄でございますが、面積は市全体の6.5%で一番小さな区になってございます。区の範囲がよくわからないと思われる方もあるかと思ひまして、広げると地図になる市政概要もご用意しておりますので、必要があればご参照いただければと思います。

それから、中区におきましては、都市的土地利用が50%を超えておりまして、宅地の割合も30%を超えており、4区の中で最も高くなっております。

それから、一番下の自然景観のところにありますように、宅地化が進む一方で、龍ノ口山や操山などの里山や、旭川、百間川、倉安川、祇園用水など豊かな水辺空間が広がっております。天然記念物のアユモドキも生息し、市内でも有数のホテルの生息地もございます。

それでは、9ページをご覧ください。現状と課題でございます。保健福祉、子育てのところでございますが、ひとり暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯が、中区は4区の中で最も高くなっております。こうしたことも踏まえて、課題①にありますように、高齢者を地域で見守る仕組みづくりなどが課題となっております。それから、防災・防犯面では、一番下のところに住宅密集地域ということで、道路が狭く、区内全域に用水路が多くあるとございまして、次の10ページの上から3つ目のところ、用水路の安全対策が課題となっております。もちろんこれは全市的な課題ということでございますが、中区では住宅が密集しているため、特にそのような意識があるということでございます。

それから、特色ある地域づくりにおいて、現状のところにありますように、沢田の柿まつり、雄町米のご当地グルメ、区内の大学と連携した取り組みなどが現在行われておりま

すが、今後さらに、課題の①にありますように、操山、曹源寺、点字ブロック発祥の地などいろいろな地域資源を活用し、また、そういう情報を発信していく必要があると考えております。

あわせて、学生の地域活動への参加なども含めた、協働による地域活性化を進めることが課題となっております。

それでは、11 ページをご覧ください。東区の概況でございますが、人口は10万人弱で、4区の中では最少となっており、4区の中で唯一人口減少期に突入をいたしております。また、高齢者比率も4分の1を超えて、4区の中で最も高くなっております。

それから、地勢のところにありますように、干拓による広大な農地が広がっております。その一方で、製造業が集積して、本市製造業の中核を担っております。

それから、地域資源のところでございますが、歴史文化のところにありますように、500年以上の歴史を誇る西大寺会陽は国の重要無形文化財に指定されております。それから、自然景観のところにありますように、市内唯一の有人離島である犬島は、犬島精練所美術館や瀬戸内国際芸術祭などで脚光を浴びているという状況でございます。

それでは、13 ページをご覧ください。東区の現状と課題でございます。産業につきましては、①にありますように、美作岡山道路・瀬戸ICの整備を契機とした企業誘致が課題として挙がっております。それから、農業の担い手の育成や、西大寺会陽や犬島をはじめとする地域の魅力の活用と発信等も課題となっております。

交通のところでは、渋滞対策などの交通利便性の向上や、買い物、病院などの生活交通の確保という課題もございます。それから、保健福祉、子育てのところですが、高齢化率が高いということで高齢者の支援策も重要だろうと考えております。14 ページでございますが、人口減少に歯どめをかけるためにも、子育て環境の整備も重要だろうと考えております。それから、防災・防犯でございますが、南部の干拓地などもございまして、津波・浸水対策も重要な課題となっております。

特色ある地域づくりでございますが、15 ページの①にありますように、西大寺会陽等の伝統行事や五福通りの町並みなど、地域の歴史・伝統・文化の継承と魅力の発信が課題となっております。また、②にありますように、カネボウ跡地に整備された「元気な新拠点」の活用も課題でございます。それから、③ですが、政田サッカー場の立地を生かしたフエジアーノ岡山との連携なども課題として挙がっております。

では、17 ページをご覧ください。南区でございます。人口は本市の23.4%を占め、面積は16%を占めております。区域の過半が江戸時代以降の干拓地ということで、経営耕地面積が4区の中で最大、その中でも田んぼの割合が最大となっております。そして、中央卸売市場や岡山港、福島地区などがあるあたりの岡南地域ですけれども、ここには臨海工業地帯が広がり、大規模商業施設も立地しております。

それから、地域資源でございますが、児島湾を挟んで南の児島半島には、金甲山、貝殻山といった瀬戸内海国立公園の一部になっているところがありまして、瀬戸内海を一望で

きるということでございます。

19 ページをご覧ください。南区の現状と課題でございます。産業につきましては、農業の担い手確保が課題になっております。また、近隣市町との連携による広域的な鳥獣被害対策も課題に挙がっております。

交通につきましては、②のところですが、迫川地区など公共交通不便地域における生活交通の確保が課題となっております。

それから、次の 20 ページをご覧ください。防災・防犯でございますが、市民意識調査では、とりわけ南区で防災の意識が高くなっておりまして、津波・浸水対策や自主防災組織率の向上が課題になっております。また、これに関連すると思いますが、コミュニティのところの課題にありますように、災害時には「共助」を担う単位である町内会活動の活性化も課題として挙がっております。

それから、特色ある地域づくりのところですが、現状に書いてございますように、地域課題解決の取り組みや新たな魅力づくりの取り組みなど、いろいろな取り組みが区域内で行われておりまして、今後、地域間で情報共有を図って、さらに活性化させる必要があると考えております。

ただいま各区の説明をさせていただきましたが、今後、施策の方向性を検討する中で、全市的な課題として扱うべきものは分野別計画への記載にとどめるなど精査をしていく必要があると思っております。その一方で、現時点で洗い出せていない地域性のある課題などがあれば、追加で補充していく必要もあるかと考えております。

資料 6 と資料 7 は、資料 5 のバックデータということで、本日は時間の関係上、説明は省略させていただきます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○越宗会長 どうもありがとうございました。大変詳細かつ広範にわたる資料でございまして、読み込んだ委員さんもいらっしゃるのかもわかりませんが、なかなか事前に十分目を通すということはできず、持ち時間の関係で斜め読み、拾い読みぐらいしかできませんでした。また、各分野についてのお考えは、長期構想の審議の中で発表してきていただいておりますので、改めてという部分もかなりあるのではなかろうかなとは思いますが。

それでは、(1)の①の前期中期計画の位置づけと基本的な考え方について、資料 1 でご説明いただいたのですが、委員の皆さんがどのようなご意見、ご感想をお持ちか、そのあたりから協議に入りたいと思います。

それでは、五十音順で阿部典子委員から。

4 協議事項 (1) ①前期中期計画策定の基本的な考え方について

○阿部典子委員 詳しい説明、ありがとうございました。質問になるのですが、これを取りまとめるに当たって、市民参加の部分の区別計画ワークショップ(全 10 回)での意見を

把握した上でこの計画だということをスケジュールの資料でご説明いただきました。ありがとうございます。こうした市民参加型の計画設定というのはこれからも必要になるという意見がこの委員会でも上がっていたと思うのですが、このワークショップの様子や、それをどのように反映されたかということがあれば、少し教えていただきたいなと思います。

○事務局（門田） ありがとうございます。ワークショップは、10カ所で開いたわけですが、やはり割と多かったのは交通の問題ですとか、それから高齢者対策の問題、コミュニティづくりが大事だという話、そして子育て支援の話も出てございます。その辺りが共通しておりましたが、中山間地域のほうでは鳥獣対策といったようなことも挙がってございました。

○阿部典子委員 ありがとうございます。ということは、計画づくりの中では、これから先、こういったことをより詳しく、また具体的に盛り込んでいったり、考えていったりしていくという理解でいいでしょうか。

○事務局（門田） ワークショップで得られたことも踏まえて、現状と課題の中に記載をさせていただいております。今後、その現状と課題に対してどのような施策が必要かを検討していきますが、その中には、先ほどご説明しましたように、分野別の計画の中で受けるものもあれば、区の中で特色のある取り組みをするものは区別計画に残していくものもあるという形で、整理が必要かとは思っております。

○阿部典子委員 ありがとうございます。

○越宗会長 では、阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 全体的な体系といいますか、分野別のそれぞれの項目の立て方は非常によくまとまって、わかりやすい内容だと思います。区別の計画を進められるということですが、市民にとっては、区に対するイメージはあまりないのではないかなという気がします。一方で、長期構想を含めた総合計画の内容を市民の方に十分理解していただいて、協働のまちづくりを進めていくことが極めて重要ではないかと思います。

そういった場合、一般の市民の方は、自分の身近なところから考えて、そこから市としての課題や意識を共有していくことが重要になると思います。先ほど阿部典子委員からワークショップの質問がありましたが、これを具体的にどう進めていくのが重要ではないかと思います。

資料1について感じたことは、以上です。

○越宗会長 それでは、小山委員、お願いします。

○小山委員 私は、このワークショップに1回参加させていただきましたが、生の声が本当にたくさん出ました。ただ、これをこれからどう整理・精査していくかだと思います。中期計画を検討する際には、地域の声がますます大切になると思います。そういう意味で、1つのシナリオができたわけですから、これから区別の計画がどの程度浸透していけるかだと思います。浸透の仕方によって、市民一人一人の「区とはこういうものなんだ」という理解が深まると思いますので、区ごとの将来におけるビジョンが明確に捉えていければと思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、お願いします。

○岡本委員 長期構想がきれいな冊子になって、また、きれいなピンクで、とてもかわいいなと拝見させていただいているところです。すごくいいと思うのは、将来都市像1のところ、「中四国をリードし、活力と創造性あふれる」、2つ目のところに「誰もがあこがれる」、3つ目に「全国に誇る、傑出した安心を」と書いているところです。「この5年頑張るぞ」という気合いがあふれているような表現だと思って見せていただきました。

中期計画は、本当にこれが創造性だぞ、これがあこがれる部分なんだぞ、これが傑出した安心というところなんだぞ、ということを見せるような計画になっていなければならないと思います。「どこが傑出しているか」というところを見せるためには、各分野の現状と課題をどのような成果指標ではかるのかということがとても重要になると思います。

傑出した安心と言うからには、例えば区の状況を見ますと、パッと目に入ったのが、用水路の安全対策、転落事故という内容がどの区にも書かれています。そうすると、どれぐらいの死亡者数があり、それが経年的にどれぐらい減っていくんだということが、きちっと成果として見せられることが、やはり傑出した安心につながると思うので、そのあたり中期計画の中でどのように見せていくかが非常に重要だと思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。では、梶谷委員さん。

○梶谷委員 ワークショップの結果を区の現状に落とし込まれたということなのですが、ワークショップの資料7を見ますと、参加者の年代構成が、60代、70代がそれぞれ70名以上参加している一方、20代が9名の参加で、年代に非常にばらつきがあります。言ってみれば、集まった人だけでやってしまって、本当に「この区の意見を聞いた」という形になっていないのかもしれないと感じました。

それから、長期構想についてはこの場でいろいろ議論してきましたが、中期計画は今後執行部で練り上げるという話がありました。ただ、より具体的に進めていかなければいけない中期計画になると、恐らく行政だけでできるものは非常に少ないと思います。やはり、

市民が自分のこととして、お金も出し、体も動かすということがないと、市全体としてよりよいまちづくりができないと感じます。そういった意味では、中期計画の策定においてこそ、関係する市民団体や経済団体など、いろいろなところと、よりしっかりと意見交換をしていただいて、案を練り上げることが必要なのではないのでしょうか。行政だけで案を練り上げたものは、いざやろうとしたときに、どうしても空回りになりますし、行政にもそんなに潤沢に税金が入ってくるとも思えません。いかにお金を使わずに質を上げるかということを見ると、計画段階でいろいろな人を巻き込みながらやっていただく必要性があるのではないのでしょうか。

また、各種団体もそうですが、本当に行動力のある若い方としっかりと意見交換をしていただいて、若い方と一緒に動けるような計画につくりこんでいくとよいのではないのかと思います。若手の経営者や学生など、素晴らしいアイデアとか行動力を持っておられる方がたくさんおられますので、意見交換をしながら具体策に盛り込んでいただき、参画してもらえると、実効性のある素晴らしい中期計画になると思いますので、よろしく願いいたします。

○越宗会長 はい、お願いします。

○片山委員 去年の岡山市基本政策審議会では、データの資料が大変多かったのですが、数字による客観性が確保できており、それを土台にして意見が出されたということは、大変自信が持てることではないかと思っております。また、このたびもワークショップがありましたけれども、去年もアンケートやパブリックコメント等、市民の声をかなり吸い上げていたことも、この計画の基礎になっているのではないかと思います。

今回の中期計画は、かなり具体的なものになってくると思います。細かいところまで計画の中に盛り込むことはできないと思いますが、できるだけ具体的なものになればいいなと思っております。

また、「多様性」と「連携」ということが、最近求められているキーワードではないかと思っております。梶谷委員がおっしゃったように、NPOや若い人、大学生などとの横の連携も視野に入れていただければと思います。

また、分野別計画におきましても、大きく3つに分かれておりますけれども、必ずこれはどこかでつながっているものばかりですので、どのようにしてつなげていくかを検討することも大事だと思っております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、小松委員から。

○小松委員 たくさんの資料をいただきまして、ありがとうございました。2点だけ申し上げておきます。これは私にとっての宿題だと思うのですが、まず1つは、政策3の「多

彩で活力ある農業の振興」の中で、新規就農希望者が5年間で604人相談に来たのに、そのうち実際に就農したのは4%で24人だったということです。農業をやるにも、生活するにも、立地的にこんなに恵まれた場所で4%というのは、あまりにも寂しいという気がします。これは私自身の宿題であるかもしれませんが、もしその辺りの理由を解析されていたら、教えていただければと思います。

もう1つは、先ほどからほとんどの委員が言及しておられますが、やはり区の問題です。恥ずかしながらこれまでの計画に区単位の何かがあったか、今回は初めてなのか、もしあったとするならば、現状と課題をどう踏まえておられるのかということを知りたいし、初めての取り組みなら、なぜそういう取り組みをしようとされたのかをお聞きできればと思います。

いずれにしても、区単位でのビジョンづくりや、中期計画は重要だと思っております。そういう中で、区長の役割、はっきり言いますと、権限と決裁金額、責任などをどう高めていかれるおつもりかという点が気になります。権限がなければ、なかなかやる気が継続しないのではないのでしょうか。

また、我々は8月8日にたたき台について議論すればよいのですが、やはり作成の過程では、NPOや住民の方もそうですが、一番日常的に見ておられるのは区の職員の方々ではないかと思えます。そういう方々のプロジェクト的な取り組みで、職員が「自分たちがつくるんだ」という気持ちで、作成していただければという希望を最後に申し上げて、私のコメントとさせていただきます。

○越宗会長 塩見委員さん。

○塩見委員 資料1は、長期構想を受けて、30の政策と90の施策という分野別計画に、非常によくまとめていると思います。私は、区別の計画は非常に大切と思っております。それぞれ皆さん、区に住んでいるわけで、それぞれの区は非常に違っております。ですから、コンパクトシティについては、中心市街地だけが繁栄するのではないか、私たちのところは放っておかれるのではないかとといったことを心配しているということもあるものですから、やはりワークショップでいただいた意見をもとに、区別計画を、分野別計画と連携をとって進めていくことが非常に大事であると思っております。

○越宗会長 杉山委員さん。

○杉山委員 膨大な資料をこのような形でまとめられるのは本当に大変だろうと思えますし、同時に行政の立場では、何かに絞り込むのは今の段階では難しいかもしれないのですが、将来都市像のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、には、それぞれ何らかの目玉がどうしても必要ではないでしょうか。

絶えず考えてほしいのが、外部環境要因がすごく変わってきていることです。例えば、将来都市像Ⅰに関連して、「うらじゃ」は22年の歴史であり、22年前にはなかったのです。誰かが意図を持って始めて、22年たって「うらじゃ」が定着している。恐らく大森市長さんとか、それからストライプインターナショナルの石川さんなんかやられて、今度 Art Summit をやられるので、また新しい何かをつくり上げていこうということを打ち出されるのだと思うのですけれども、やはり5年なんてあっという間にたってしまうので、そういう視点をきちんとこの「経済・交流都市」、「中四国をリードする」という将来都市像Ⅰにも、ぜひ出してほしいと思います。

それから、2番目の「子育て・教育都市」というのは、専門家の方がいらっしゃるのですが、私が言うことではないのかわかりませんが、やはり市内に8つも大学があるということをもう少し大切に、大学、高校、中学校、小学校を連携させていくような打ち出し方を検討していただけたらと思っています。3番目の「健康福祉・環境都市」については、今構想が動いているOMCの戦略とか、そういうようなことを、きちんとこの中にうまく取り入れておいていただけたらいいのではないかと思います。

もう一つ申し上げますと、実際に外部環境要因を考えると、2020年にはこの岡山市のまちに自動運転の車が走っています。そういう時代がもう来ます。では、それに対して一体岡山市はどうするのですか。確かに過去に積み上げてきているのはよくわかるのですが、もう少し大きな外部環境要因の変化に対して、一歩踏み出したような形で考えていただけるといいと思います。

たまたま同友会の総会で、倉敷市長が水素ステーションをつくるということをご明言されていましたが、岡山市は何もやらなくていいのでしょうか。中期計画の5年間の後でも構わないのかもしれませんが、都市経営を考える際には、新しい動きに対しても、少しでもきちんとした軸を立てていくということをご提言させていただき、それを少しでも取り入れていただければ、非常にありがたいと思います。以上です。

○清板委員 3つの都市像、10の基本方向、30の政策、90の施策体系のそれぞれの表現に、市民を非常にエンパワーするキャッチコピーが並べられているという印象を持ちました。前に進んで、より豊かに、そしてより積極的にということも大切なのですが、やはり裏の部分というか、影の部分もきっちり掲げられて、それをどう市が捉えて、どう解決していくかという視点や表現も盛り込まなくてはいけなかったのかもしれないと、これを読んで思いました。そうしないと、市の施策目標と市民の求めるもの間に乖離が起きてくるのが懸念されるのではないかと思います。

そういう意味でも、先ほど片山委員がおっしゃったように、マスのデータに注目することは説得力を持ちそうですが、やはり臨床の知というのでしょうか、数は少なくとも、例えば市民のヒアリングの場面を、年齢層のバランスを考慮し、特にこれからを担う年齢層の方たちに多く参加していただけるような工夫を含めながら、一人ひとりが抱えているも

のを把握する必要があるのではないのでしょうか。特殊な人の意見に見えるかもしれませんが、その中に普遍性が見えることもあると思いますので、そのような資料やデータを市がきっちりと読み込んでいき、それを施策に、言葉にわかるように盛り込んでいくことも必要かと感じました。

○浜田委員 岡本委員がおっしゃったように、将来都市像の書き方が非常に躍動感にあふれていて、「傑出した安心を築く」など、非常に迫力のある踏み込んだ表現、ありきたりではない表現になっていると思います。

できれば、中期計画もこういう迫力のある表現になればよいと思いますが、どうすればそうなるかということが課題です。1つは、作り込みの段階でNPOをはじめ民間の声をできるだけ入れるということもありましょうし、若い世代の声をできるだけ入れるということも必要かと思います。データの活用は十分にできていると思いますが、できるだけリアルな声といいますか、地域の声、それから現場の声、特に市役所の中でも各分野の第一線の方々の現場の声を反映させることで、ありきたりではない計画ができたらいと感じました。以上です。

○藤原委員 大変立派な長期構想を拝見させていただきました。本当に冊子が見やすく、わかりやすく、そして興味を引く項目が大変多いと感じました。「市民と行政が一体となって」といううたい文句がございますが、作り上げたものをいかに市民に浸透させるかが重要です。市民一人ひとりにわかりやすく説明して、それを浸透させて、みんなの力を結束して、みんなで成功に導くという形をとるのがベストだと思いますが、そうするには努力と苦勞がつきものです。本当に全て成功に導ければ、日本を代表するモデル都市になっていくのではないかと思います。

今までは岡山という言葉を見ることがなかったのですけれども、最近はいろいろなところで岡山という文字が目につくようになりました。間違いなく今、岡山は動いているなど感じる人が多いですが、ぜひ成功に導いて、全国に岡山の名を示していただけたらと思います。

○泉委員 今日の会議の目的は、長期構想の実現という観点でぜひ押さえておくべきポイント、盛り込むべき方向性についての意見を聞くという案内をいただいています。

長期構想の実現ということからいいますと、盛り込むべき要素が全部盛り込まれているか、また、個々の実現可能性があるかどうかということだと思います。

資料3を拝見しますと、これまでの議論が集約されていますので、盛り込むべき論点は忘れていないと思いました。実現可能性という点では、言葉の使い回しを別に取り上げるつもりは一切ないのですけれども、「推進」という言葉と「促進」という言葉を結構使い分けておられるという印象を持ちました。具体的には、前にいただいた資料では、「推進」と

という言葉が政策 90 の中で 27 個、「促進」が 4 個あったと思います。ご担当の方も苦肉の策で使い分けられているのだらうと思いましたが、その辺りに実現可能性のジャッジメントが表れているのかなと思いました。

次に、財政的な面も拝見しているのですが、152 ページに財政上想定される指標が出ておりました。もちろん税制や経済状況が現在と変わらないということを前提に計算をされておられると思いますが、これならもう少し積極的に政策を展開される余地が十分あると思いましたが、したがって、今後各論展開の中で、特に定量計画をつくられる場合に、あまり消極的にならず、積極的におやりになったらどうかと思いました。以上でございます。

○越宗会長 各委員からご意見を伺いました。私も一言申し上げます。副会長の泉委員と同じ意見なのですが、前期中期計画、3つの将来都市像、10の都市づくりの基本方向、それに沿っての政策、施策の体系をまとめておられますが、論点がきちんと整理されて、目指すべき課題が網羅されているという印象を受けております。

もちろん施策体系等には、もう少し具体性のある文言というか、岡山らしさというものが見えてもいいかなとも思いますが、まずは論点を整理するという意味では、ある意味で抽象的な表現になるのもやむを得ないのではないかと理解をしております。

いずれにしても、複数の委員がおっしゃいましたが、どう実効力を持たせていくかということであろうと思います。そのためには、成果指標等、具体的な数値指標をこの過程で盛り込んでいくということが大切ではないかと感じた次第でございます。

それでは、次に入りたいと思います。今までで1時間が経過し、ちょっと時間が押してくると思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いしたいと思います。

4 協議事項 (1) ②「政策・施策体系」「政策分野別の現状と課題」について(将来都市像 I)

○越宗会長 次の分野別の政策・施策体系及び現状と課題ということであります。この分野別の課題等につきましては、既に長期構想の議論の過程で皆様のご意見をいただいたところなのですが、長期構想を実現するための中期計画の策定を進める上で、ぜひ押さえておくべきポイントをできるだけ絞って、ご意見をいただきたいと思っております。大変広範にわたりますので、将来都市像ごとに分けて議事を進行してまいりたいと思っております。

まず、「経済・交流都市」の実現に向けた政策の1から10についてのご意見をいただきたいと思っております。ここからは、ご意見がある方を優先的に指名させていただきたいと思っております。どうぞ、挙手をお願いします。ご遠慮なさらずにどうぞ。

では、阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 それでは失礼します。資料3の施策体系には90の項目が並んでいますが、それぞれの項目を見た場合に、どこがどう違うのかが少しわかりにくいところがあります。

例えば、政策2には「①まちなかの魅力と賑わいづくり」と「②賑わいにつながる回遊性の向上」がありますが、かなりオーバーラップするところがあるのではないかという点が少し気になります。

また、それぞれの政策で、新しいこととして具体的に何をやっていくのかをもう少し明確な形で整理されたほうが、内容的にわかりやすくなるし、インパクトがあっているのではないかという気がしました。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかにどうぞ。片山委員。

○片山委員 経済について、ヘルスケアといいますか、健康や医療に関することでは、岡山は非常に進んでいますし、いろいろな施設、また大学の講座や関連企業も多いと聞いています。また、岡山市のほうで、経済局が中心になられたのでしょうか、ヘルスケア推進協議会をおつくりになられて、具体的に取り組んでいらっしゃることは、大変すばらしいと思います。

そこで、ぜひ進めていただきたいことがあります。協議会の中では産学官がまとまって取り組みを進めておられますが、市役所の中での連携ができているか、少し心配しています。例えば、この取組には福祉局なども関係すると思います。やはり市役所の中での連携も進めて、ヘルスケア産業における連携による取組が成功して、国内だけではなく海外にもチームで進出できるようになっていただければと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかには何かございませぬか。どうぞ、梶谷委員。

○梶谷委員 まだ課題が抽出されたぐらいで、具体策の検討はこれからになると思います。先ほども申しましたが、行政だけがやるというのではなく、市民や企業と一緒にどうやってやれるかをぜひ考えていただきたいと思います。行政はこれができる、企業にはこれをしてほしいなど、意見交換が必要ではないでしょうか。市民や企業の側も、市の政策は市がやるものだという意識がどうしても強いですが、それでは本当の意味での良いまちはできません。特に経済や交流は、民間がその気になるということが大切だと考えます。

○越宗会長 そうですね。これは中期計画の策定全般に言えると思うのですが、行政と市民の協働のあり方が問われるものであろうかと思えます。「経済・交流都市」に関して、ほかに何かご意見はございませぬか。

将来都市像Ⅰに関連してですが、平成の大合併等で、岡山市の市域が随分広がっております。表現が適切かどうかはわかりませんが、市街地が広い範囲に拡散しています。そのような状況の中、人口減少時代を迎えて、都市機能をどう維持していくかということを考えますと、やはり都市づくりの基本方向の2にあるように、「コンパクトでネットワーク化

された快適で多様なまちづくり」という視点が最も重要ではないかと思います。

平地が多い岡山市の特性を生かして公共交通等を整備し、歩いて楽しいまち、自転車で周遊できるまちをつくるための方策を進めていただきたいと思います。

○梶谷委員 せっかくの機会なので、交流という視点で申しますと、先ほど大学が8つもあるというお話がありましたし、オリンピックに出るような選手がいるクラブチームもあります。そういった意味では、世界に発信できるような器がないと、世界に冠たるものを呼んでこれないということもございます。岡山の場合は、駅の周辺等にかなり用地があるというところと言うと、世界に発信できるようなものを呼べるだけの器をぜひつくっていただいて、その運営は、民間や大学など、いろいろなところが協力しながらやれるようにしていただければと思います。世界の一流が来ると市民の意識も変わりますし、よそから来る人に「岡山ってすばらしいね」と言ってもらえると、より自信を持って世界に出たいと思いますので、一度考えていただければと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。そのほかご意見はございませんか。

○片山委員 先ほど杉山委員がおっしゃったことなのですが、この先5年の間に、AIやインターネットを使ったものがすごい勢いで発展して、そのことによって私たちの生活も随分変わったものになっていくのではないかと思います。例えば海外との交流についても、小学校から大学までの間に、インターネットなどいろいろなものを活用して交流すれば、今よりももっと海外とつながっていけるのではないかと思いますので、そういったことも視野に入れていただけたらと思います。

○越宗会長 杉山委員、どうですか。

○杉山委員 今、ICTには本当にすごい革新が起きています。コンパクトシティ化は絶対必要だろうと思いますので、例えば市電を拡充する方向がいいのか、それとも自動運転のバスを回遊させる方向がいいのか。実はそれが絵空事ではなく、現実になりつつあります。たしか石川県ではそういうことが既にスタートしています。なので、委員会がいいのかプロジェクトチームがいいのかはわかりませんが、組織を早めに立ち上げて、岡山市にとって何がベストなのかということをぜひ検討してみたいと思います。

私は非常にポジティブな人間なので、わくわくしています。私たちが想像もできないようなすごい時代が間違いなく来ます。だから、それに早めに対応して、逆に言うと、投資をしないほうがよいところも出てくるかもしれません。その辺りは、専門家を入れてしっかり議論されるべきだろうと強く思います。

○越宗会長 ありがとうございます。

ほかにはないようでしたら、次の「子育て・教育都市」ですね。ここに政策の 11 から 19 までございますけれども、ここについてのご意見をいただきたいと思います。どうぞ。

4 協議事項 (1) ②「政策・施策体系」「政策分野別の現状と課題」について (将来都市像Ⅱ)

○藤原委員 常日頃からずっと思っていますが、たくさんの方の政策の中で、個人的には基本方向 4 の「安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり」に一番力を入れていただきたいと思います。人口が減少することは本当に大変で、いろいろな面に支障が出ますが、人口が増えることによってまちが活性化します。また、安心して子育てができるまちづくりをしていただくことが、一番プラスになると思うのです。

特にこの中にあります政策 12 の①、②については、私の周りにもこういう問題を抱えている子どもたち、家庭がたくさんあります。どうすればその人たちに手を差し伸べることができるか、私はいつも大いに悩んでいますし、行政もなかなかそこまでタッチできません。でも、問題はだんだん膨れ上がって、家庭や子どもたちも不安ばかりが大きくなっています。そのようなことをどこまで行政が把握されているかわからないですが、特に基本方向 4 に力を入れていただきたいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 教育都市については、人づくりということが重要になると思います。ESD の取組は、子どもがこれから成人して、大学に行って、就職をしてという過程の中で、「このまちが好きだ」「このまちに参加する」「自分たちが地域を動かす」という意識が持てるような取組が必要になるのではないかと思います。

もう一つは、基本方向 6 の政策 17 にある「②地域における主体的な活動の促進」と、「③多様な主体による協働の推進」です。これはとてもよく似ていると思うのですが、多分②は地域のリーダーのような方をイメージされていて、③は NPO 等の活動主体をイメージされているのだと思います。地域づくりの担い手がなかなか世代的に更新されていないとか、次の世代の地域のリーダーができないとか、そういう課題は切実なので、一つ一つの施策を具体的に検討される際に、そのようなことも考えていただければと思います。

特にこの 2 つの記載で気になるのは、皆さんもずっと言われているように、90 の施策体系を具体的に市民が主体となって動かす、言い換えれば、計画の実現に向けて市民が一緒になって動くというイメージとは少し遠く感じるのではと思います。そういった意味でも、施策をつくるところで市民の声をもう少し反映していただきながら、より自分たちのものになるような工夫が必要だと思いました。例えば、「市が施策として書いているものは行政がやってくれるもの」という印象にならないようにしていけたらいいという印象を持ちま

した。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかには何かありませんか。

岡山市では、市内の認可保育園に入園できていない待機児童が、4月現在で前年同期を大きく上回る729人になっており、過去最多であると発表されました。これは1年間に急に増えたのではなく、待機児童の定義を見直したのが理由であると聞いておりますが、私はこのような市の姿勢は評価できると思っておりますし、課題がはっきりしたわけですので、今後、市立の保育園を新設するなど、受け皿を広げて、待機児童の早期解消を目指してほしいと思います。

保育園の定員増というのは、もちろん長期的な課題でありますけれども、同時に緊急事態でもあろうかと思っておりますので、子育て支援の中ではまず保育サービスの確保をぜひ進めたい。これが都市づくりの基本目標に掲げている「住みやすさに磨きをかける」という文言を具体化する施策の1つであらうと思っておりますし、また、働き方を見直すということにもかかわるであらうと思っておりますので、ぜひ強力に推進してほしいという印象を持っております。どうぞ。

○大森市長 先ほど浜田委員、岡本委員から、「誰もがあこがれる充実の」という表現がいいのではないかという話があった中で、この待機児童の数は、越宗会長からお話がありましたように、10年間以上ゼロが続いていたところに、今年初めて729人という数字を出させていただきました。藤原委員もここに重点を置いてほしいとおっしゃっていた中で、こういう数字が出た背景をご説明したいと思います。

まず、この729人という数字は非常に恥ずかしい数字でございますが、政令指定都市の中では断然ワースト1であります。まだ全国の集計が出ておりませんが、23区の中で世田谷区が1,100人という数字が出ていますので、多分このままいくと、日本全国の中でワースト2になる可能性が高いのではないかと考えております。

なぜこの729人という数字を出したのかということですが、我々として何もしていないわけではありません。私が就任してから2年間の間に、約1,000人の定員増を行いました。そういうことで受け皿をどんどん広げていったわけではありますが、1つは今まであった潜在ニーズが顕在化していることがあります。「保育園をつくっていくという方針が出たのなら、私もちょっと手を挙げてみようか」という方が出てきたというのが1つございます。

もう1つの要素が非常に大きいのですけれども、実は今まで待機児童ゼロというのは、例えば、市役所の周辺に住んでいた方が近隣の保育園に申し込みをする。そのときに空いていなくても、厚労省の定義では、通常の交通機関で30分行ったところに空いている保育所があれば、待機児童として数えなくてもよいという通達がありました。

ということは、例えば大供の人が建部に毎朝送り迎えをして、夜も送り迎えをするということであれば、車で30分なので、待機児童に該当しない。これは間違いではないと思

います。しかし、現実を考えてみたときに、毎日 30 分かけて建部に行けるかという、岡山の市民生活を考えた場合は少し難しいのではないかと、多分皆さんそうお考えになるだろうということでもあります。

保育園の申し込みには第 3 希望まで書いてもらいますが、全て書いて調整をしたにもかかわらず保育所に行けない人に対して、「周辺部に行ってくれ」というのは問題じゃないだろうかということを考え、そういった人を洗い出してみると 729 人いたということになります。

待機児童がゼロから 729 人になったというのは、数字だけの問題ではなくて、我々として待機児童をゼロにする責任があるということを表に出したつもりでもあります。そういう点では、ここで言っている「誰もがあこがれる充実の子育て・教育都市」に近づけるプロセスとして、こういったことも考えたほうがいいのではないかとことを申し上げたところでありまして、会長から評価のお言葉をいただき、非常にありがたく感じています。世間では少し物議を醸すような形になっていることはご承知をいただきながら、味方になっていただけるとありがたいと思います。以上です。

○泉委員 その点に関して、資料 4 の 56 ページにある「市内入園状況の推移」は、平成 28 年度までのデータなのですね。これを拝見していますと、確かに行政のご努力、ないしは民間の努力も相当入っていると思うのですが、定員が増えていきます。ただし、実際に入園された方は、少し下げ幅が拡大しているような感じなのですね。729 人というのは非常に勇気のあるご発表で、私も非常に感銘したのですけれども、この数字を考えるとどう違うものなのですか。

○大森市長 データには 2 種類の数字が入っているので、誤解を招きやすいところがあるのですが、例えば、「保育園に入りたい」と言って申し込む方がいますね。申し込んで、入れなかった人を、ここでは「未入園児童」と呼んでいるのです。したがって、平成 28 年の 4 月は 1,343 人ということになります。そのうち 729 人が待機児童ということになっているわけです。

この差は何なのかというところですが、例えば第 1 希望だけ書いて、「この園じゃないと行かないよ」という方もおられる。それは「もう少し園の範囲を広げて希望していただかないと我々も調整できません」ということで、第 3 希望まで出していただいた方を待機児童と呼んで、それ以外は未入園児童という形になっているということです。

そういう面で行くと、待機児童の 729 人と未入園児童の 1,343 人の間の 600 人ぐらいは、ひょっとしたら来年になるとまた待機児童になる可能性がある。そこはよく見ていかないといけませんので、今年は 800 人超定員を拡大しますが、今年もアンケートをやりながら、次は来年の整備に向けて、定員等を調整していくことになっています。

○泉委員 わかりました。

○越宗会長 よろしいでしょうか。

それでは、次の「将来都市像Ⅲ」ですが、健康福祉・環境都市、そして都市経営の政策についてのご意見を伺いたいと思います。どうぞ。

4 協議事項（1）②「政策・施策体系」「政策分野別の現状と課題」について（将来都市像Ⅲ、都市経営）

○浜田委員 健康福祉では、例えば60歳以上の人の4割は地域活動に全く参加していないとか、未婚者が増えていて、男性の2割近くは生涯独身であるとか、ひとり暮らしの人たちが増えていて、特にお年寄りのひとり暮らしがこれからすごく増えるだろうとか、心を病む人たちが大分増えているとか、いろいろ気になるデータが出ています。やはり社会的なつながりといいますか、居場所とか、それぞれの人にどうやって役割を持ってもらうとか、その辺りがとても大事だと思いました。

梶谷委員がおっしゃったように、行政だけでは対応できない課題かと思うのですが、1つの考え方は基本方向7「住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり」の政策21ですが、最近、高齢者の地域包括ケアシステムというのが言われていまして、こちらでもそういうことが指摘されているのですが、地域包括ケアシステムというからには、いろいろ生活に困っている方々を包括するような仕組みを各地区でつくっていくという考え方を打ち出すのが1つかなと思います。また、本当に市役所の第一線で働いているような、地域包括センターやふれあい公社など、困った人に寄り添っている方がいらっしゃると思うのですが、そういう方々のご意見なども反映させて、具体的な仕組みづくりができればいいと思いました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。浜田委員がおっしゃった気になるデータでいいますと、私がショックを受けたのは、岡山市の平均寿命と健康寿命です。この差が全国平均に比べてすごく大きいということです。平均年齢は、岡山市は男女ともほぼ全国平均なのに、健康年齢は男女とも全国平均よりかなり低いという事実です。

災害も少なく、自然にも恵まれているし、医療・福祉の面でも先進都市と言われていた岡山市で、どうしてこのような結果になるのか、ちょっと不思議に思うのですが、これはやはり住み慣れた地域で医療や介護を受ける地域包括ケアシステムを確立することが鍵になるでしょうし、在宅医療や在宅介護といった体制を強化することも必要だろうと思います。行政だけでは予算の面でもマンパワーの面でも限りがありますから、健康寿命を伸ばすためには、やはり生きがいつくりというか、心の面が大変大切な要素だと思います。また、そのためには公民館などを核にした、地域で支え合う仕組みづくりが必要で、まさに行政と市民の協働が求められると思います。

○大森市長 越宗会長のおっしゃるとおりだろうと思います。よく言われるのは健康寿命、生きがい、運動、そして食生活と言われます。ちなみに、政令指定都市で岡山市の健康寿命はビリから数えたほうが早いような、男性が 18 位、女性が 15 位だったと思います。ちなみに 1 位は浜松です。お茶やカテキンの影響と浜松市長がおっしゃっていましたが、本当かどうかはわかりません。

あと、運動については、例えば糖尿病の関係でいくと、東京、大阪、名古屋の 3 都市で統計処理をすると、血糖値が一番よいのは東京で、次は大阪で、一番よくないのが名古屋であり、これは有意差が出ているらしいのですけれど、やはり東京では地下鉄の乗り降りだけでも随分歩きますから、運動量の違いだと思います。トヨタの本拠地がある名古屋は車への依存度が高いのかもしれませんが。これからも、町内会や連合婦人会をはじめとして、いろいろな運動をしていただいているのを、サポートしていきたいと思います。

○越宗会長 どうぞ。

○岡本委員 健康寿命の話があったので少し。岡山では、愛育委員や、健康日本 21 関係の推進委員の活動が非常に活発で、それぞれの地域で非常に盛り上げておられると思います。それでも高齢者はやはり増えていきますし、後期高齢者になると要介護度が上がるため、やはり前期高齢者が非常に元気でなければならないと思います。前期高齢者が元気であるためには、働く世代や子育て世代から、中年期を経て退職の前までという、それぞれのプロセスの中での健康を支えることが非常に重要だと思います。

元気なまま高齢者になっていただくには、地域と職域が連携して、働いているときから地域を守り、地域もその人を活用しながら体系的な健康づくりを推進していくことが必須と思うので、そういった内容も計画の中に盛り込んでいただければと思います。

それとプラスして、この政策を読ませていただきまして、いろいろな書き方があるというところが気になりました。現状と課題では、データは経年的な推移が見えるという以外にも、他地域との比較によって、岡山の特徴が浮き彫りになるような示し方があると思います。そのように整理されているデータもあれば、そうではないものもあるというところでは、経年変化や比較でデータを示せるものについてはもう少し書き入れていくことで、課題が明確になるとともに、計画づくりにあたって何をいつまでにどの程度解決すればよいのかという内容が整備されていくので、よりいいと思いました。

例えば、虐待の相談件数は、65 ページに経年変化と全国との比較の両方のグラフがあるのですが、用水路への転落事故は、121 ページに「27 年には 7 件もの転落死亡事故が発生した」と書いてあるだけです。テレビでは「平成 25 年に 15 人、26 年に 6 人、27 年に 12 人、合計 33 名の死亡」というニュースを見たことがあるので、経年のデータはあります。課題は場所別や地区別の話になるとも思いますので、この問題を明確化して、どこにどれ

ぐらいの予算を投じていくのかということが明らかになるようなデータの出し方がよりよく、目標設定にも役立つのではないかと思います。

安心して外に出られるということは、健康づくりでも、子育てでも大事ですし、これから高齢者や要介護者が増えると事故も増えますので、それを防止することが重点課題になると思います。その辺りをご検討いただきたいと思います。

○小松委員 都市経営との絡みでもよろしいですね。

○越宗会長 はい。

○小松委員 データについては、例えば岡山と全国を比較したり、政令指定都市間の比較で見られたりしていますが、岡山県内で気候風土や方言、食べ物等の条件が似たところ、例えば倉敷、笠岡など、条件の近いところと比べてみて、「倉敷も笠岡も岡山も似たようなものだな」と思えば、県や県民性の問題かもしれません。岡山だけが突出してよければいいことですし、反対に悪ければ市の問題ということになります。全国や遠い政令市と比較することが適当なデータとそうでないデータがあるのではないかと思います。

政策 29「②圏域をリードする広域連携の推進」に関しては、岡山市は恐らく県庁所在地でもあるし、規模などを考慮すると、リーダーに値する都市になると思います。しかし、岡山市の状況が他地域をリードするに値するかどうか、また、他地域が岡山市のリードのもと、連携してついていこうと思うような状況かどうかは検証する必要があるのではないのでしょうか。他地域が「うちのほうがよっぽどよくやっているのに、岡山とやったら健康寿命が落ちるぞ」という話になると問題です。本当に胸を張ってリードできる、あるいは潜在力があるという状況でしょうか。そうでなければ、早急にそれを改善しなければならぬだろうという気がしております。

○越宗会長 どうぞ。

○塩見委員 政策 22 ですが、生活に困窮してられる方には、岡山市がサポートセンターを設置してくださり、セーフティネットの構築がなされていますが、地域福祉の推進については、地域コミュニティが非常に高齢化しており、なかなか活動ができないというところもあると聞いています。ですから、安全・安心のネットワークをつくるときには、大学生などの若く活力のある方に入っただけであればと考えています。そのようにしていただけたらありがたいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。

ほかにご意見がないようでしたら、協議事項（1）の③に移りますが。どうぞ。

○岡本委員 複数の委員が、計画づくりにあたっての市民参画のことをおっしゃっていました。ここは市として責任を持ってやりたい、ここは市民に主体的にやってもらいたい、ここはぜひ協働してやりましょうと、それぞれの役割と責任が計画の中に明確に書かれていけば、市民としても、全部を行政がやってくれるのではなく、自分たちで主体的に責任を持ってやらないといけないことがあると思うので、ぜひそのような書き方にしていきたいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。岡本委員のご意見をぜひ参考にしていきたいと思います。

それでは、ほかにないようでしたら、(1)の③「区の概況、現状と課題について」について、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。ここはまず、連合町内会の小山委員にご意見をいただきましょう。

4 協議事項 (1) ③区の概況、現状と課題について

○小山委員 今回、区という単位が打ち出されていますが、区には以前から、区長に権限も予算もないという課題がありました。地域と行政が1つにならなければ、今後いろいろな課題に対応できないと思います。やはり区単位で課題をしっかりと表に出し、行政と手を組んでいかなければならないと思います。

私は東区に住んでおり、東区ではこれから区長と前向きに懇談していこうと思っていますが、やはり東区には東区なりの大きな課題があり、それをどう捉えていくかが問題です。私が一番懸念しているのは、岡山市で東区だけ人口が減少していることで、しかも、この先も急速に人口減少が進むということです。そう考えると、受け身になるだけではなく、もっと前向きに進んでいくことも考えなければ、本当のまちづくりはできないのではないかと思います。

そういう意味では、私たち連合町内会は、地域の声がしっかりと頭に入っていると思います。これをどう表面化して、行政や区に対して折衝していけるかが大きな課題として、岡山市全体としての1つのテーマになるのではないかと思います。

○越宗会長 連合婦人会の塩見委員。

○塩見委員 ありがとうございます。やはり区をつくっていくのは区の住民ですので、いいプランを住民のほうから出していけるように、ワークショップで出た現状と課題などを区民の方にしっかりと示して、そして我々の会合でもこれをよく読み込んで、どんないいプランができるか、活性化するためにどのようなことを発案していけるかを考えていけたらいいと思っています。

○越宗会長 そのほか、どうぞご意見を。

○梶谷委員 区の現状と課題のとりまとめには、非常に苦勞されているのではないかと思います。というのは、区といってもかなり範囲が広く、1つの区のまとまりとして課題を挙げるのは非常に難しいだろうと感じています。区の中をもう少し小さいコミュニティ単位で分けて、それぞれのコミュニティの課題を洗い出しながら、それをどう連携の中で解決していくかという発想でまとめないと、「区全体としてこうですよ、ああですよ」と言っても、非常に遠いかなと思います。

私も実は倉敷市民なのであまり詳しくないのですが、やはり市の全域や旧倉敷市といってもなかなかぴんとこなくて、自分が住んでいる地域だとこんな課題があって、こんなことをやろうということならしっくりきます。やはり区を本当に活性化しようと思うと、区の中をもう少し小さなコミュニティに分けて、それぞれの課題はどうかということのを洗い出したうえで進めたほうがいいのかと感じました。

○越宗会長 いかがでしょうか。岡山市のよさというのは、市域が広いためにいい意味で総花的で、何でもそろっている、さまざまな資源に恵まれているということだと言えるのではないかと思います。おっしゃるように、その中で、例えば東区には西大寺会陽という大変インパクトのある行事があるのですが、それも冬の一時期のことでありまして、通年でアピールできるようなものではありませんので、少しイメージが弱い区や地域は確かにあります。

長期構想の時も少し意見を申し上げたのですが、やはりここは足元の地域を見直していくとか、そのよさを掘り起こしていくことで、今回のテーマになっておりますけれども、「静から動へ」という都市づくりの目標につなげていくために、市民と行政がともに変えていく岡山市、岡山市政を実現していかなければならないのではないかと強く感じています。

○小松委員 区ということでは、私たちが一番気になっているのは北区なのです。北区は建部や御津がある純農村地帯で、地域おこし協力隊が入ったというニュースを聞いた時、岡山市は関係ないだろうと思ったのですが、地域おこし協力隊が入らねばならないような地域があったのかという感じです。ですから、特に北区に関しては、住民の方が「岡山市と合併してよかった」と思えるように、辺境扱いされるということがないように、光を当ててはどうでしょうか。中核都市の岡山市と合併した中山間地が、合併によって輝いていますというようなところを、ぜひこの区の計画の中に描き出していただければと思っております。

○越宗会長 よろしいでしょうか。

ほかにないようでしたら、協議事項の2の「その他」というところに移りたいと思います。何か事務局からございますか。

4 協議事項（2）その他

○事務局（植月） 次回の日程でございますが、8月8日月曜日の午前10時からということで、たたき台をお示ししてご議論いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○越宗会長 次回、8月8日ということであります。よろしくお願いいたします。

それでは、最後にもう一度、大森市長から一言お願いします。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。議論を通してまず、皆さんのご指摘として受けとめたのは、市民との協働ということであります。岡山市役所の行政を考えた場合、多分99%の業務において、市民と協働できるのではないかと考えております。市民という範囲もまた非常に多岐にわたるでしょうから、連合町内会や連合婦人会、NPOなどはよく出てきますが、それだけではなく、企業の方を含めて、本当の意味でのオール岡山市民なのではないかと考えています。4月から協働のまちづくり条例を施行させ、今議論に取り組んでいるところです。ステップバイステップにならざるを得ませんが、これから機運を醸成させて、多岐にわたる市民との協働を実現すべく、ここに整備をさせていただきたい、プロセスも考えさせていただきたいと思います。これが1点でございます。

それから、全体として、ポジティブに物事を考えていくべきだというご指摘をいただきました。「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」ですから、当然ながらこれはポジティブに考えていかなければならないのだと思っております。ご指摘いただいた項目について、大きな視点を忘れずに整理をして、8月の8日には素案を出させていただきます。小松委員がおっしゃったように、大いにたたいていただくものがたたき台でございますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会

○事務局（植月） これをもちまして、本日の平成28年度第1回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでございました。

閉会